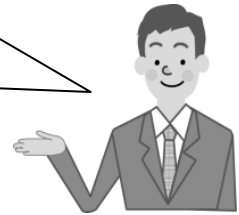


D ☆ 小・中学校の通常の学級、高等学校の生活全般における計画 (例)



通常の学級担任です。教科への配慮というよりは、対人関係全般に、個別の指導が必要なのですが、どの形式がいいですか？

福島県特別支援教育センターで、以前から提示していたシンプルな形を提案します。
通常の学級は、自立活動を取り入れている訳ではありませんので、活用しやすい、引き継ぎやすいことが第一です。



個別の指導計画 (例)

〇〇立 〇〇小学校 個別の指導計画 (作成日 令和〇年〇月〇日)

氏名	郡山 次郎	学年	6年	生年月日		作成者	
指導の目標 (長期目標)	◎場面に応じた行動を知る。 ◎自分の感情のコントロールができ、友だちとのトラブルを減らす。						
領域	実態	短期目標	○手立て・取組の様子◆結果				
生活習慣	学校の準備に時間がかかり、母親が手伝っている。	「連絡帳」を見て、自分で準備することができるようにする。	○明日持ってくるものを「連絡帳」に書かせ、担任が点検する。 ・自分で書き写すことが習慣化した。 ◆週5～6回の忘れ物が週1～2回程度に減ってきている。 →今後も継続				
健康運動	特になし。	特にない場合もあります。					
社会性・対人関係・行動	グループ活動等で、自分の思い通りにいかない場面で、暴言をはく、暴力をする真似をする。	思い通りにいかない場面での対応の仕方を学ぶ。	○放課後の落ち着いた場面で、1ヶ月に1～2回程度本人と、場面に応じた行動、感情の調整等について話し合う。 ・「まあ、いいか。」と受け入れる姿も見られてきた。 ◆本人もだいたい場に応じた行動が身に付いてきて、トラブルが減ってきた。 →今後は、日常場面で意識した指導で十分。				
学習	概ね、学習は落ち着いて取り組んでいる。グループ活動等が課題。(→対人関係)	上記による。	上記による。				
事項特記							